

## 第4回 油日学区幼保・小中学校再編検討協議会 議事概要

1. 日 時：令和2年8月4日（火） 19時30分から21時30分

2. 場 所：油日コミュニティセンター

3. 出席者：委員12名 欠席3名  
事務局（市）9名

### 4. 議事内容

#### 1) あいさつ

<委員長>

事務局職員自己紹介

#### 2) 会議の概要報告について

[事務局より資料1について説明]

委員長) このままホームページに載るのか。

事務局) 修正がなければこのまま掲載します。

委員長) 関西弁のしゃべり言葉の個所は、修正の必要ではないか。

事務局) 文末について修正します。皆さんご確認いただいて、修正があれば事務局へ報告いただくようお願いします。

委員長) 委員の皆さんから意見があれば、事務局へ報告します。

#### 3) 学校教育課 前回協議会の質問事項と学校教育の現状と課題について

[事務局より資料2について説明]

#### 4) 保育幼稚園課 幼稚園と保育園の制度について

[事務局より資料3について説明]

#### 5) 意見交換

委 員) 学年が1学級の小学校と2学級以上の小学校の違いについて、油日小学校のような1学級のタイプの学校で、学級の取り組みの中で活発な意見が出にくいとの発言であったが。

事務局) 20名以上であれば出やすいということです。

委 員) 20名以下は出にくいということですね。少人数だと、図工の作品の勢いがないうということか。

事務局) さまざまなアイデアが出やすいのは、人数が多い方ではないかということです。

委員) 先ほどの説明は、イメージによるものか、市の調査等に基づくものか。そうでなければならない(調査に基づいたものでなければならない)。逆を言えば、少人数なら一人の子が何回も意見を言え、その中で個人が深まっていくとも言える。印象操作のようなことは言わない方が良いのではないか。

図工の作品について、大規模校でも小規模校でもしており、それぞれの指導のありようだと思う。勢いがいいから表現が弱いというのは、思い込みではないか。

調査に基づいたデータから説明をしてもらいたい。

委員) 油日にこここ園の現状について、定員55人に対し47人の園児数であり、推移をみて今後はもっと減ると思っており、だから再編があると思っていた。しかし、案外持ちこたえているという印象です。

委員長) 幼稚園、保育園の再編はどのようなものか。

事務局) 油日にこここ園、大原にこここ園、甲賀北保育園を統合して、民間の認定こども園にするものです。

委員長) 1カ所になるのか。

事務局) そうです。

委員) 現状と課題を私たちに突き付けられても、市の方はどう思われているのかを聞きたい。油日小学校もコロナの影響で、2学級制になったと他の保護者から聞いた。そのような状況で、今決めても良いものか。

委員) コロナの影響もあるため、再編の方向で考えるのは危険。大規模校に集中すれば、感染症ができれば一気に広がってしまう。分散している方がよく、今までの考えとは180度転換し、1から検討することを提案したい。

委員) コロナの影響により、油日小学校では5月18日と25日に分散登校し、6月から再開した。WHOでは、コロナとの戦いは長くなる、コロナがなくなっても違う感染症が発生するとしている。そこで、コンパクトスクールを提案したい。今の油日小学校の人数だから教室では2mの間隔を取り、フェイスシールド等で余裕をもって密にならない対策をしている。このサイズだからできている。再編するとできない。市内でもクラスターが発生しているが、小中学校の義務教育でまた休校することは大変なことになる。

文部科学省でも、今の1学級の定数は小1が35人、小2から6が40人となっているが、30人に見直そうとしている。そうなれば、学校も分散してコンパクトにしていくことを文科省は求めてくると思う。コロナの発生により、再編については180度変えないと命にかかわる問題となってくるため、教育委員会として検討してほしい。子どもたちに良い教育環境と言っていることから、議論の余地はない。

委員) 前回にも話したが、なぜ再編の協議をしているかが明確ではない。例えば、人口が減ってきて小学校を運営することが厳しいので減らすのか、あるいは、子どもにとって良い環境を与えてあげたいから複数クラスが必要なのか、その辺りがよく分からない。前回も言っていたがイメージでしかない。色々な話が出ていて、どちらも良いなという印象を受ける。しかし全てイメージであり、いろんな人のイメージである。

根拠に基づいたもので、大人数になればデータとしてどうであるか、少人数であればどうであるか。また、再編したとして、それがいつまで維持できるのか。例えば、統合するのに10年かかったとして、その後何年維持できるのか。子どもの人数が少ないことが問題であれば、たちまち再編したとしても、また再編ということになるのではないか。根本的な解決にはなっていない。

今ここで再編したとすれば、市、県としてこのような政策があって、それによって、この人数を維持できる可能性があるということで、再編するのであれば何とか理解できるが、たちまち統合するなら、その先はどうするのか。統合するにしても手間と費用がかかるが、その分の価値がある運営を続けられるのか。子どもが減っていく傾向に歯止めをかける根拠があるのか。ものすごく疑問である中で、この再編の協議をしていて意味があるのか。根本的な人口を減らさない対策に力を入れてほしい。

地域に学校が無くなれば、今後人口を回復させる際に、プラスにはならない。地域に魅力はあっても、学校が無いと来てもらえない。再編するとしても、このような対策があるという具体的な案があり、複数クラスについてもイメージではなくデータや根拠に基づいたことで話をしてもらえると、こちらも協議していく中で再編ということも候補としてあがってくる。

事務局) 活発にご意見をいただき、ありがとうございます。先ほど話に出ました大人数と少人数のクラスについてのメリット・デメリットはどのようなかという議論ですが、確かに「イメージ」ということについては客観性などの部分で色々ご意見があるかと思えます。そこはご容赦いただきながら、少人数は少人数なりのメリットがあるでしょうし、大人数なら大人数なりのデメリットも逆に出てくるでしょうし、そのようなところを、地域に暮らしていただいている皆様に議論していただくのがこの場であると考えています。

また、ご意見いただきました客観的な市の姿勢について、何に基づいて、市の人口減少に対応していくのかをご説明させていただきます。

市の総合計画に市の目指す姿が記載されていますが、最も根底にあるテーマとして書かれているのが人口減少であり、市にとって1番の問題であると書かれています。

数年前に新聞等でも取り上げられましたが、人口問題研究所という機関が、何十年後かに自分たちの住むまちの人口がどれだけ減るか、限界集落になるか等の予想を発表したものがあり、市としてはそこで言われている指摘を踏まえていかなければならないと考えています。どうしても人口減少していくのは避けようがない現実ではありますが、研究所が予想しているような急カーブを描いて人口が減少していく人口推移を何とか鈍らせる施策を講じていきたいと考えています。

例えば、お子さんの医療費の無償化制度も年々拡充をしている状況で、近年では住宅のリフォーム補助について、子育て世代に対しては一般の補助金に上乗せし補助金を交付しています。さらにIターン、Uターンで帰ってこられた若い世代の方が、親御さんと同居や近所に住まわれるとさらに上乗せし補助するという

施策もしています。教育委員会としては、第3子以降のお子さんの学用品費の費用負担もしています。

どんな施策が正解はわかりませんし、このような施策があるから、本来何人減少する可能性があったところを何人でとどまっているといった分析はできていませんが、周りの市町を見ながら何か施策はないかと、教育委員会も子育ての部局もその他様々な部局が努力しております。その中で何とかまちの活気を維持するために、皆さんと色々な施策をお話しさせていただいてきました。今回の再編の議論というのは、現状の規模の学校が現状の場所にあることと、再編計画で示す規模の学校になること、その計画を議論いただきたいと考えています。かかるコストが3つの学校が1つになったからといって、3分の1になるわけではなく、スクールバスを走らせるコストや1つの学校になることで発生するコストもあることから、簡単にお金だけの損得で進めているわけではございません。

委員長) 前回の会議からの進捗が見られず、毎回同じような議論になっていると感じる。

委員) もう煮詰まってきたのではないか。現状維持という方向性で。

委員) 今のお話を聞かせていただいて、個人的な意見ですが、甲賀市の人口減少を食い止めるという方向で進めていくのであれば、学校再編という形ではなくて、今の学校を維持できるように取り組んでいった方が良いのではないかと思います。

「市としてどういう方針でどうしたいか」という方針がないまま、いつも活発な意見交換をしてくださいと言われるが、思っていることは意見交換できても、着地点がわからないまま喋っていて意味があるのか疑問に感じる。

委員) 前回も紹介しましたが、昨年度区長をやっていて、このままではうちの区は50年後に限界集落になると思われることから、まちづくり委員会を立ち上げた。区として何ができるのかを区民の皆さんと一緒に考えていき、市にも県にも言うべきことは言っていく、何とか区の人口を減らさない、外へ出る人がいれば戻ってきてもらう、さらに今都会に住んでいる人で田舎暮らしをしたいという人に市からもっともっとアピールしてもらおうよう働きかけ、呼び寄せるということを検討しているところである。

区として「うちの区へ来てください」とまちの人に呼び掛けても、小学校はありますか、と問われた時に、「もうすぐ無くなります」とはとても言えない。学校が無いようなところには行けないとそっぽを向かれてしまうのがオチであると思う。

先ほど、総合計画の中で人口減少を食い止める施策を色々と説明いただいたが、そのことをやるなら、今のコミュニティも大事にして、それぞれの地域で人口を増やす方法、減らさない方法、減らさないために何ができるのか、何をしなければならぬのかを考える方が先であると思う。

10月に市長選挙があるため、結論を急いでいるような印象を受ける。市長が公共施設の床面積3割削減ということを書いており、それにあわせるように話を進めているように思います。

先ほどの施策の説明は、学校再編を進めることに理由には全く当てはまっていないように感じる。再編ではなく、現状維持で良いようにも思えてくる。

委員) 何とか人口が減らないように、説明されたような施策があると思いますが、それは市として人口減少しないようにする施策であり、甲賀町として見たときにどうなのか。そういう考え方が市には無いのではないかと感じる。甲賀市全体として人口減少してなければそれで良いのか、じゃあ甲賀町に住んでいる人間はどうなるのか。学校は遠い、これから増えようもない。都会の人に、田舎暮らしの良いところを聞いた時に、多く人はきっと「子どもを育てやすい」「子どもが育つには良い環境なのではないか」と言われると思う。本当にそうなのか、学校は近くにないということをやったら、「そこまでの田舎はちょっと…」と言われると思う。5町が合併して、言い方は悪いが、甲賀町は切り捨てられるのかな、とイメージを持ってしまう。合併時も主要なものは全部水口に集まっていくのではないかという話はあった。お祭りなども全て水口にいった。若い人は水口に行けば良いとなるかもしれないが、年寄りも水口のお祭りに行って楽しいのか、甲賀町は楽しいところなのか。学校も再編されて、通うのにもバスに乗らないと行けず、甲賀町は便利なのか、住もうと思えるのか、というところであると思う。

市として考えたときには、何とか減らないように色々施策を講じていることはわかるが、もう少し僻地に住んでいる人のことも考えてもらえたらと思う。そういうところは市がどのように思っているのか疑問である。

事務局) ありがとうございます。人口規模という部分については、市で集計しますので、データ上、我々が気にするところではありますが、おっしゃる様に地域によって人口の張り付き具合が違い、市の中でも人口がどのように動いているか分析をしています。やはり JR の駅がある周辺の人口が最近が増えており、市内移動でもそのような傾向があります。市として、そこだけ増えれば良いのかという話では無く、5つの町で一緒になって発展していくため、地域の強みをクローズアップして、地域振興・まちおこしに繋げていきたいと考えています。例えば、焼き物や忍者で日本遺産の指定を受けたり、そういったものを題材にして、全国に売り出していくような取り組みも進めています。甲賀で言えば「薬のまち」ですので、忍者と絡めて売り出す検討もしております。

委員) 総合計画には、攻めと守りの政策のバランスをとってやっていくと書かれているが、それを実現するためには「夢や希望の持てる未来を作らなければならない」とも書いている。学校再編で小学校がもうすぐ無くなるかもしれないという話が、果たして夢や希望の持てる未来を作る話なのか。

前回の会議で、具体的な小規模校と大規模校のメリット・デメリットが分からないと、なかなか協議が進まないという意見が出たから、今回その点について調査をしていただいたと思う。資料の中で、甲賀市の教育の現状と課題について列挙されておりご説明いただいたが、その中で、教員の児童への関わりの点で、少ない方が厚く関わることがメリットであり、逆に多いと関わり過ぎることがデメリットとなると説明を聞いて感じた。それ以外の項目については、多い方がメリットになり、少ない方がデメリットになるという話があり、あまりないということで私自身は捉えている。各項目の捉え方にもよると思うし、それぞれメリット・デメリットがあるのは理解する。

先ほどから他の委員の方も言われているが、この油日小学校区においては、地域に根差した学校ということで、ビオトープ、周りの企業や地域の方が色々な協力しているということを考えると、私としては、統合ではなく学校を残して、少ないながらのメリット活かして、「夢や希望を持てる未来を作る」ようにした方が良いと思っている。

他の委員の方も言われたように、合併してからは水口中心になっているのは私もそう感じている。ただ、水口以外の地域が水口のようになるべきとも思っていない。水口中心になるとは思うが、各町それぞれのポイントとなる中心地を交通も含め、結んでいくやり方が良いと思う。

色々な話をしたが、総合計画の主旨から考えると、小学校は残していくべきではないかと感じている。

委員) 認定こども園になると、どこまでしてもらえるか決まっているか。今のところ、公立園だと18時半までであるが、私立園になるともう少し遅くまで預かってもらえるのか、認定こども園だと病児・病後児保育をしてもらえるのかを聞きたい。

事務局) 認定こども園というのは子育て支援事業として、本来の保育所業務以外の業務もするよう努めることとされているので、仮に甲賀町の再編計画に則るとすれば、民間で認定こども園を設置・運営いただく事業者を募集する形となります。募集時に病児・病後児保育などの事業も行うよう条件を付けて募集することとすれば、事業者が行うこととなりますが、まだ現段階で条件がどうなるということは全くございません。

委員) 委員の中で、小さな子どもがいる保護者が少ないという現状があり、その理由として、小さな子どもがいるとこの時間に出にくいという事情があると聞いている。しかし、小さな子どもを持つ保護者の意見をもっと聞くようにした方が良いのではないかと感じる。

委員長) 今のご意見にあったように、会議は人数制限もあり、小さな子どもがいる保護者をメンバーに入れられなかった部分もある。そこで、保育園・幼稚園の保護者の方を対象を絞ってアンケートをとるという形でどうか。

委員) どのようにアンケートをとるのが良いかはわかりませんが、甲賀地域の保育園には、甲賀町外の児童も登園している。さらっと説明されたが、甲賀北保育園を無くすということですね。保護者が工業団地に勤めており、預かってもらえる時間をもっと長くしてほしいというニーズや病児保育もしてほしいといった意見は色々なところから聞いている。むしろそちらに力を入れるべきであり、保育園を無くして、幼稚園と一体にして、その運営は民間に任せようというのはもったのほかだと感じる。

事務局) ご意見ありがとうございます。現状としては、甲賀町外の地域から登園をされている方もおられます。それぞれの保護者のニーズに応じた場所をご選択いただいで通っていただいているところです。そういった中で、病気をお持ちのお子様や特別な支援が必要なお子様を預けたいといったニーズも増えております。そういった部分につきましては、甲賀地域の公立園としては甲賀西保育園にて対応しております。

ただ、それにつきましても対応する費用というのはどうしてもかかります。私立園化することによって、運営費については国が半額、県が25%を負担するという形になり、75%を市以外が負担することになりますので、それにより生じてくる市の負担の減少分を、甲賀西保育園の特別な保育が必要な部分の負担に回せるといった面もごございます。

委員) 甲賀西保育園に通っている園児の数はどれくらいか。

事務局) 4月1日現在で122名、定員は110名です。

委員) あの規模なら60~90名が理想と思う。甲賀地域で言えば、間もなく工業団地がオープンする。そうすると雇用拡大、若い世代がたくさん入ってくると保育需要が高まることが予想される。そうすると甲賀北保育園も残して、手狭なら、工業団地の近くに公立保育園を作れば良いと考える。それにより、雇用促進にも繋がる。人口を増やしていこうとするなら、そういうことを考える時代ではないかと思う。

委員長) 活発に議論をいただいているところですが、終了予定時間が超過しているので、このあたりで終わりたいと考えます。先ほど思い付きでアンケートの提案をしたが、アンケートに答えてもらうにはきちんとした説明があって、それに対して答えてもらう必要があり、現状では将来のことについて答えが出ないと思いますので、難しいのかと思っている。

協議会の方向性というのは、だいたい決まってきたので、次回そちらの方向で話を持っていきましょうか。

委員) 現状維持で合併はしないという方向で、まとめていけば良いのではないか。

今度、協議会として提出する原案を皆で確認するという形でどうか。

委員長) 若い世代の方の意見はどうか。

委員) この会議で色々と議論しているが、何もかもイメージで、具体的にどうなるのかもわからず、イメージだけで議論して、イメージだけで結論を出すのであれば、無くなったら困るよねとしか言えない。

委員長) 皆さんもそうであると思う。

委員) とりあえず残そうという結論で良いのではないか。一旦無くしてしまったらもう戻らない。

委員長) 次回は結論をどう持っていくかの議論をしましょうか。

委員) 方向性は現状維持ということで良いか。

委員長) それで良いと考えます。

委員) 最終的には、市が再編計画を出されると思うが、「地元の意見を尊重すること」とされていたように思う。地元の意見の集約がこの協議会と思うが、これだけ人数がいるとなかなか○か×かでは結論が出ないが、「概ね現状維持の意見が多く、中には少数意見としてこんな意見もあった」という形の整理で良いか。先にあった佐山学区の報告書には結構はっきり書かれていたように思う。

委員) 佐山学区も多羅尾学区も結論は現状維持であったように思う。

事務局) 佐山学区の再編協議会の報告書では、抜粋して読むと「地域住民の思いも踏まえ、協議会としては小学校・保育園とも存続することを決定しました。なお、保

育園舎について、老朽化が進んでいることから、子どもたちの安心・安全の確保のため、早急な建て替えが必要であると意見がまとまりました。今後とも佐山学区の教育全般につきまして、甲賀市教育委員会のご支援・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。」となっています。

委員) 協議会の結論として、ある一定の方向付けはあったということですね。全会一致で存続が結論として出ているような文章であるが、本協議会はどのような結論にするか。

委員) 多羅尾についてはどのような書き方か。

事務局) 再編報告書の結論の部分には「現時点といたしましては、多羅尾小学校は存続すべきとの結論に至りました。」と記載されています。

委員長) 再編報告書の原案はどのように作成するのか。

事務局) 委員長と相談しながら、たたき台を作ることになるので、内容について相談させていただければと思います。

委員長) 本日の話で概ねの方向性は決まっているので、次回の会議は原案をたたき台として議論するという事によろしいですか。原案を作って次回の案内と一緒に送付して、会議までに各委員が確認するという事で進めたいと思います。

次回日程については、9月20日前後で調整して、また連絡します。

次回(第5回)協議会

日時: 令和2年9月20日前後に開催予定